

**製品名: CaMKII $\beta$ / $\gamma$ / $\delta$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07889**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、その他
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	50+65kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CAMK2B CAMK2B; CAM2; CAMK2; CAMKB; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit beta; CaM kinase II subunit beta; CaMK-II subunit beta; CAMK2G; CAMK; CAMK-II; CAMKG; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit gamma;
別名	
遺伝子 ID	816/818/817
SwissProt ID	Q13554/Q13555/Q13557
免疫原	抗血清はヒト CaMK2- $\beta$ / $\gamma$ / $\delta$ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 253-302

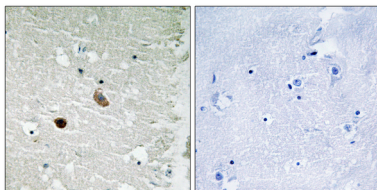
**背景**

この遺伝子産物は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリーおよび Ca(2+)/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼサブファミリーに属する。カルシウムシグナル伝達は、グルタミン酸作動性シナプスの可塑性の様々な側面において極めて重要である。哺乳類細胞において、この酵素は  $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ 、 $\delta$  の4つの異なる鎖から構成される。この遺伝子産物は  $\beta$  鎖である。この鎖の異なるアイソフォームは、それぞれ異なる細胞内局在を示し、カルモジュリンとの相互作用も異なる可能性がある。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2014年5月]、代替産物: CAMK2B タンパク質の可変領域は、少なくとも7つのエクソン (V1~V7) によってコードされている。この領域内の選択的スプライシングにより、CAMK2B アイソフォームが生成されます。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。酵素調節: CAMK2 の自己リン酸化は、キナーゼ活性の調節において重要な役割を果たします。機能: CaM キナーゼ II (CAMK2) は、中枢神経系における主要なキナーゼであり、長期増強および神経伝達物質放出に関与していると考えられています。興奮性シナプスにおける NMDAR シグナル伝達複合体のメンバーであり、AMPA の NMDAR 依存性増強およびシナプス可塑性を制御すると考えられています。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CaMK サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: CAMK2 は、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ 、 $\delta$  の4つの異なる鎖から構成される。異なるアイソフォームは、8~12のサブユニットからなるホモまたはヘテロ多量体ホロ酵素に集合する。SYNGAP1 および CAMK2N2 と相互作用する (類似性による)。MPDZ と相互作用する。組織特異性: 広く発現している。成人および胎児の脳で発現する。胎児の脳では発現がわずかに低い。

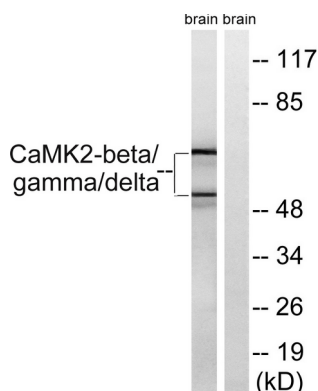
## 研究分野

ErbB\_HER;カルシウム;卵母細胞減数分裂;WNT;WNT-T細胞長期増強;神経栄養因子;嗅覚伝達;GnRH;メラニン形成;神経膠腫;

## 画像データ



CaMK2-beta/gamma/delta 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CaMK2-beta/gamma/delta 抗体を用いたラット脳細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。